

食事が終わった後は、レッグレストを上まで跳ね上げ、枕などをセットして「ANAカウチ」に横になってみた。特筆すべきは横になった時の横幅だろう。今回は一人で3席独占という贅沢な体験をさせていただいているから快適なのは当たり前だが、寝返りが打てる余裕があると、気分的にはリラックスすることがよくわかった。

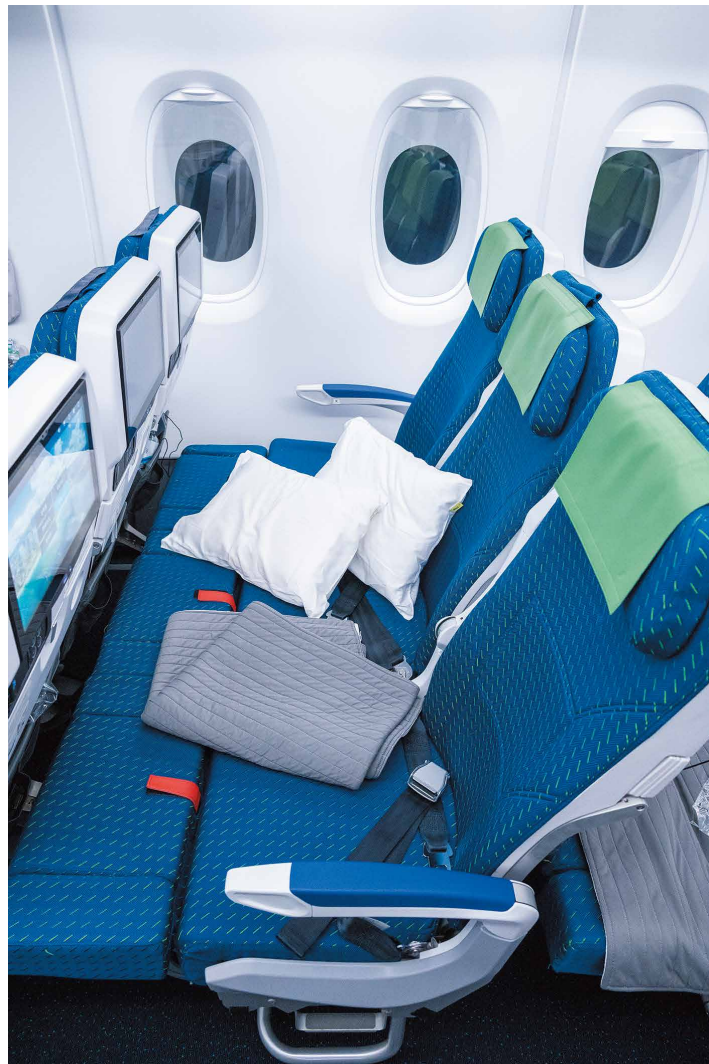
ふと気がつくと、軽く数時間は熟睡していたようだ。目覚めるとすでに機窓から明るい光が差し込んできている。しばらくすると客室乗務員が朝のドリンクを持ってきてくれた。おめざのオレンジジュースは鉄板だ。就寝前に配布されていたペストリーを朝食として食べつつ寛いでいると、そろそろハワイに向けて降下が始まるという。やがてオンファイナルを迎え

ただいた経験はあるのだが、実際にハワイへ向かっている機内で食べるとよき気分が上がる。やっぱりリアルなフライトで食べる機内食は最高だ。

いつもながらにこやかできめの細かい機内サービスをしてくれる客室乗務員にもお話を伺うと「久しぶりのホノルルへのフライトが決まった時、やった〜！と思いました」と嬉しそうに語ってくれた。ただ、我々搭乗者のように「ハワイへの旅情」にひたっている訳にはいかないわけで、「1年半ぶりのハワイへのフライトということ、確認や変更事項などしっかり学習してきました」とのこと。当たり前だが、さすがはプロフェッショナルである。



5「ANA COUCHii」の使い方を示したしおりと、専用のシートベルト。6「ANA COUCHii」の使い方は個人用モニターの番組の中にもあり、動画でベッドの作り方を解説してくれる。



成田発の往路で利用した「ANA COUCHii」。座席下にあるレッグレストが座面の位置まで跳ね上がってベッドになる。

機窓からは整然と並ぶ住宅街と緑鮮やかなゴルフコースが見えてきた。一気にリゾート気分へと押し上げてくれた感じがした。

入国審査では滞在日数など簡単な質問だけでもスムーズ。爽やかな真夏の朝を迎えたハワイの空気はとても美味しかった。

A380の往復搭乗で感じた次来るときもぜひ乗りたい

今回のホノルルは5泊6日の旅で、8月14日の成田行きNH183便で帰国した。機種はフライングホヌの2号機で、座席は通常のエコノミークラス。

想像以上に快適 「ANA COUCHii」



久しぶりのホノルルへのフライトを盛り上げようと、客室乗務員が1階後方ギャレで飾り付けして記念撮影に応じてくれた。

ダニエル・K・イノウエ国際空港の「C4」スポットへ到着。いよいよホノルルの地へ足を踏み入れると思うとワクワクしてくる。

